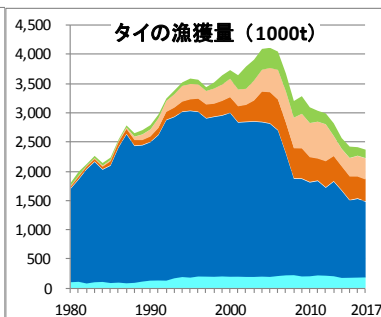
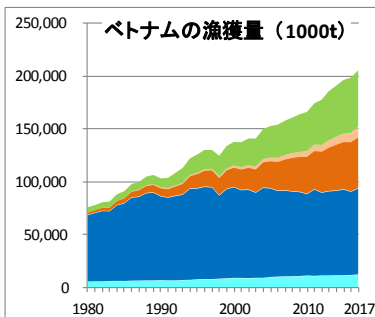
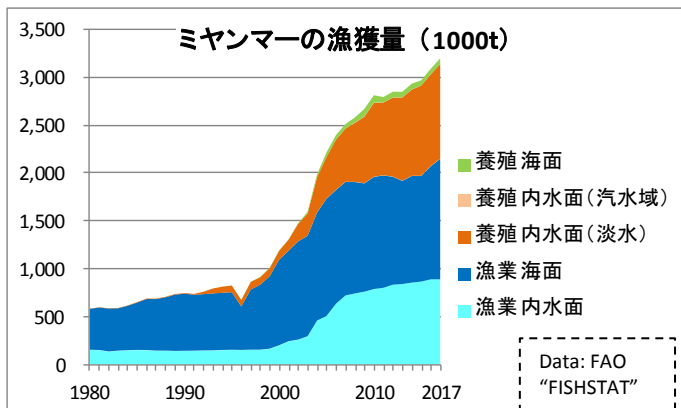


# ミャンマーにおける水産業の現状と課題

## —ベトナム、タイとの比較分析—

山本祥幸・○多田稔(近畿大学)

### 1. 漁獲量の動向



- 1)ミャンマーでは漁業・養殖ともに成長しており、量的にはタイに近い水準である。  
ベトナムは量的に多く、養殖は依然として成長している。  
タイは漁業・養殖ともに減少傾向である。
- 2)ミャンマーでは養殖よりも漁業、とくに内水面漁業のウェイトが高い。
- 3)ミャンマーの汽水域における養殖が極めて少ない。  
⇒エビの生産が少ない。生産余力が十分にある。
- 4)ミャンマーからタイ・バンコク南方にあるマハチャイ水産物市場への出稼ぎが多い。  
⇒水産加工に必要な労働力が十分に存在する。



### 2. エビ生産・輸出の動向とミャンマーの課題

- 1)ミャンマーのエビ生産量はベトナムの1/10の水準にある。
- 2)ベトナムは1986年における改革開放政策「ドイモイ」導入後、約15年を経てエビ輸出が急増するに至った。
- 3)ミャンマーにおいても今後10数年を経て、①隣国タイからの飼料企業(CP社等)の直接投資、②稚エビ供給体制の確立、③水田からエビ養殖池への転換、④エビ加工工場への電力安定供給、が確立すると大幅な生産増加が見込まれる。(現地の論文著者\*や水産局関係者からのヒアリングによる。)

文献: Xavier Teztoa (WorldFish, Yangon, Myanmar), Marine Policy (97) 2018,  
"Myanmar's fisheries in transition: Current status and opportunities for policy reform"

